

第4学年 国語科学習指導案

指導者 嶋田 知成

1 単元名 日本文化研究倶楽部を開こう 「暮らしの中の和と洋」

2 単元について

(1) 児童観

説明文の学習では、1学期に「広告と説明書を読みくらべよう」に取り組んだ。この単元の学習を通して、フリップを作成するために、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすることができるようになっている。

本校独自の「読む力」確認テストによる実態調査（4年*組 *人 *月*日実施）

設問内容	正答(人)	誤答(人)
・比較する事柄の中心となる語句や文について答えることができる。	*	*
・比べる事柄の中心を明らかにしながら、自分の考えを表現する。	*	*

児童は目的や必要に応じて文章の要点や細かい点に注意しながら読む力が身に付いてきている。しかしながら、段落相互の関係を捉え、文章の中心となる語句や文を答えることや、比べる事柄の中心を明らかにしながら自分の考えを表現することを苦手としている傾向が見られる。実態として、文章を読んで段落相互の関係を捉え、比べる事柄の中心を明らかにして、自分の考えを表現する力に課題があることがうかがえる。

(2) 教材観

そこで、目的に応じて、段落相互の関係を捉えて、比較する事柄の中心となる語や文を明らかにしながら、調べて分かったことを自分の文章に生かしながら表現する学習課題が必要であると考えた。本単元では、「目的に応じて、段落相互の関係を捉えて、比較する事柄の中心となる語や文を明らかにしながら、調べて分かったことを自分の文章に生かす」ことをねらいとする。ここで言う目的とは、日本文化の中にある和と洋について図式化してまとめ、学校の友達に紹介する文章を書くことである。日本文化の中にある和と洋を紹介する文章を作るために、児童は関連する本や資料を選び何度も読み返すであろう。「書くこと」と「読むこと」を組み合わせることにより、それぞれのねらいを一層効果的に実現するよう、領域を複合させた単元を構想した。

(3) 指導観

そのため、指導にあたっては、単元の導入において、和と洋を比較した教師の言語活動モデルを提示することにより、学習への見通しをもたせる。また和と洋の関連書籍を置き、言語環境を整える。次に、和と洋の対比関係を捉えた文章構成が理解できるように、中心となる語句や文を押さえていく。そして、学習した文章構成を生かし、和と洋を比較するプレゼンテーションを作成し、紹介文にまとめる。分かりやすい説明になるように同じグループによる交流だけでなく、異なるグループによる情報交換を行う。交流する活動を通して、自己評価を高め、学習活動への振り返りや励みになるようにしたい。

3 単元の目標と観点別評価規準

段落相互の関係を図式化し、比較する文章を作成することができる。

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
紹介するために必要な情報を得られるよう、意見を交換しながら、互いの感じ方や考え方の違いに気付き、自分の考えに役立てようとしている。	友達に紹介するという目的に応じて、比較する事柄の中心を明らかにして、日本文化の中にある和と洋について文章をまとめている。	和と洋に関する紹介文を作成するために、比較する事柄の中心となる語や文を捉えて、段落相互の関係を図式化してまとめている。	段落相互の関係を示す手がかりとして接続語の役割を理解し、読みだり書いたりする際に用いている。

4 単元の指導計画（11時間扱い）

第1次 和と洋について図式化してまとめ、比較する文章を作成する学習活動について見通しをもつ。 ······ 2時間

第2次 文章構成図作りや意味段落ごとの内容を図式化することで、文章全体の構成を捉える。 ······ 5時間

時	学習内容・活動	関	書	読	言	観点別評価規準
1	文章全体を読んで、意味段落に分け、自分の考えについて理由を明らかにする。	○				文章のまとまりごとの内容を考えて意味段落に分け、自分の考えをもって、グループの話し合い活動に参加しようとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
2	文章構成図について、学級全体で話し合い、意味段落の見出しを決める。	○				話し合い活動を通して、文章全体の構成について考え、意味段落ごとの見出しを自分の言葉でまとめている。 (読む能力)
3	中心となる語句や文を捉え意味段落の内容を図式化し、グループごとに検討する。			○		和と洋の対比関係を考えながら、中心となる語句や文を見付け、ノートに図式化している。 (読む能力)
4	文章全体の関係を考えて、和室と洋室のそれぞれの良さについて、使い方と過ごし方の面から対比関係を捉えて、文章でまとめている。			○		(読む能力)
5 (本時)	文章全体の関係を考えて、和室と洋室のそれぞれの良さについてまとめること。			○		和室と洋室のそれぞれの良さについて、使い方と過ごし方の面から対比関係を捉えて、文章でまとめている。 (読む能力)

第3次 関連する本や資料を活用しながら、くらしの中の和と洋の違いについてプレゼンテーションにまとめ、紹介する文章をまとめること。 ······ 3時間

第4次 プrezentationでまとめた内容を学級で発表し、意見を交流する。

··· 1時間

5 本時の学習

(1) 目標

文章全体の関係を考えて、和室と洋室のそれぞれの良さについて、使い方と過ごし方の面から対比関係を捉えて、文章でまとめることができる。

(3) 準備・資料

①電子黒板 ②電子黒板用ペン ③ホワイトボード

(4) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>1 前時までの学習内容を確認する。</p> <p>2 本時の学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>文章全体の構成を考えて、和室と洋室のそれぞれの良さについてまとめよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板で段落相互の関係を図式化したモデルを提示し、中心となる語や文を確認し学習内容の定着を図れるようにする。 課題となる教科書の該当部分を示すことで、文章構成を再度確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>～課題となる教科書の該当部分～ 「このように見えてくると、和室と洋室にはそれぞれの良さがあることが分かります。」</p> </div>
<p>3 和室と洋室のそれぞれの良さのキーワードについて確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>～キーワード～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すがし方 (いろいろなしせい、人と人の間かく) (長時間、つかれ、次の動作) ・使い方 (何をするかはっきり、使いやすく) (いろいろな目的) </div>	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板にキーワードを示すことで、学習内容を捉えられるようにする。 電子黒板に着目させることで「このように」が指す内容の範囲が答えのヒントであることに気付かせる。 三つの意味段落に渡ってキーワードが登場することを理解できるようにする。 前時のノートを見直すことで、まとめてきた文章構成図の中にキーワードが含まれていることに気付かせる。 考え方の手順を明らかにすることで、学習内容の理解を深められるようにする。 電子黒板のマーカーを使うことで、着目する点が明らかになるようにする。 キーワードをつなぐ言葉も確認できるようになる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>～キーワードをつなぐ言葉～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これ（それ）に対して、また、一方では、等 </div>
<p>4 和室と洋室のそれぞれの良さについて、グループで交流し、意見をホワイトボードにまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>～考え方の手順～</p> <ol style="list-style-type: none"> これまでの学習から和室と洋室では使い方と過ごし方の二つから違いがあることを確認する。 過ごし方では二つずつ、使い方では一つずつ良さを述べていることを確認する。 キーワードを確認しながら、文と文のつながりを考え、自分の言葉で説明する。 </div>	<p>(評) 和室と洋室のそれぞれの良さについて文章でまとめている。(発表の様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> 理由を明らかにして自分の意見を決めることで、考えが深まるようにする。
<p>5 学習グループの代表者が意見を発表し、学級全体で交流する。</p> <p>6 自分が最も良いと考えたグループの意見を決める。</p> <p>7 学級全体で決めた考えを教師が発表し、学習のまとめとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学級全体で考えを共有することで、本時の学習を振り返ることができるようになる。